

事後評価書（完了後の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	せたな町他5町
事業名	水産資源環境整備事業（広域水産物供給基盤整備事業（漁場））		
地区名	ヒヤマカイケ 檜山海域	事業主体	北海道

I 基本事項

1. 地区概要			
漁港名（種別）	—	漁場名	瀬棚漁場他17漁場
陸揚金額	1,237 百万円	陸揚量	2,256 トン
登録漁船隻数	— 隻	利用漁船隻数	1,230 隻
主な漁業種類	定置網漁業、刺網漁業、 はえ縄漁業、いか釣り漁業、 タコ漁業	主な魚種	スケトウダラ、スルメイカ、ホッケ、サケ、タラ、 カレイ類、ソイ類、ヤリイカ、ミズダコ
漁業経営体数	423 経営体	組合員数	470 人
地区の特徴	本地区は、北海道南西部の離島を含む日本海に面した地域であり、さけ定置網漁業、スケトウダラはえ縄漁業、いか釣り漁業が営まれている。漁業就業人口は減少しているものの、水産加工・流通業等の関連産業は管内の基幹産業の一つとなっている地域である。		
2. 事業概要			
事業目的	本地区は、水産業が地域経済の中で重要な位置を占めているが、地域経済を担っているサケ、スケトウダラ、スルメイカは漁場の形成や天候、資源動向や魚価に大きく左右されることから、安定した生産体制の構築が課題となっている。 このため、本事業において魚礁を設置し、沿岸性魚種であるホッケやカレイ類、ソイ類等の良好な生息環境を創造するとともに、底質が砂礫地帯であることから産卵基質が不足している海域に産卵礁を設置することでミズダコ、ヤリイカの資源量増大を図り、安定した水産物の生産体制を構築する。		
主要工事計画	魚礁：252,162.40空m ³ 、増殖場：203.71ha		
事業費	9,971百万円	事業期間	平成14年度～平成23年度

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	
これまで一定の水準を確保していた当海域の漁獲量が、海水温の上昇等海域環境の変化に伴い平成16年度から大幅に減少したため、魚礁原単位の見直しを行ったことから、費用便益比率も事前評価時の2.32から令和5年の1.53へ減少している。	
2. 事業効果の発現状況	
本地区は、スケトウダラやスルメイカ等の回遊魚減少により漁獲が減少傾向にあったが、本事業により魚礁・産卵礁の整備を行ったことにより、タラやカレイ類、ヤリイカ、ミズダコ等の1経営体当たりの漁獲金額は計画前の581千円（平成10年）から、897千円（平成30年）と316千円回復するなど、一定の効果が発現している。 近隣の魚礁の水中カメラ調査結果からも、タラやカレイ類、ソイ類などの非常に良好な生息環境の構築が確認され、漁業者の聞き取りにおいても刺網などで利用していることを確認した。	
3. 事業により整備された施設の管理状況	
北海道漁場施設管理要綱に基づき、北海道が適正に施設の管理を行っている。	

4. 事業実施による環境の変化				
<p>海底が平坦で岩礁域等の起伏がなく、魚類の生息環境が乏しい海域に魚礁・産卵礁を造成し良好な生息環境・産卵環境が構築されたことにより、タラヤカレイ類、ヤリイカ、ミズダコ等の沿岸性魚類の資源回復がみられ、これらの1経営体当たり漁獲量は、計画前の1.32 t（平成10年）から、1.46 t（平成30年）に回復した。</p>				
5. 社会経済情勢の変化				
<p>本地区の漁業経営体数は、平成14年の計画開始時は904戸であり、令和2年には423戸に減少しているが、水産業が地域経済に与える影響は変わらず大きなものとなっている。</p>				
6. 今後の課題				
<p>本事業では、地域魚種の生息・産卵環境向上のために、魚礁や産卵礁を整備することにより、未利用海域の有効活用が確認されたが、今後も費用対効果や経営体数等を把握するとともに、水産物の生活史で不足している沖合の生息場や、沿岸の産卵場の部分を補うように漁場整備を行い、更なる水産資源の底上げを図る必要がある。</p>				
7. 事業の投資効果が十分見込まれたか				
平成13年評価時の 費用便益比B/C	2.32	現時点の B/C	1.53	※別紙「費用対効果分析 集計表」のとおり

Ⅲ 総合評価

<p>本事業では、スケトウダラやスルメイカ等の来遊減少による漁獲量減少の対策として、魚礁・産卵礁の整備を行った結果、水中カメラ映像や漁業者聞き取りによりタラヤカレイ類、ソイ類等の生息環境の構築が図られたことを確認した。</p> <p>このことにより、タラヤカレイ類、ヤリイカ、ミズダコ等の1経営体当たり漁獲金額は計画前の581千円（平成10年）から、897千円（平成30年）に回復した。</p> <p>さらに、現在の状況において費用対効果分析を行ったところ1.0を超えており、経済効果も確認されていることから、本事業は当該地区において効率的な水産物の供給体制に寄与しており、想定した事業効果の発現が認められた。</p>

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	檜山海域
事業名	広域水産物供給基盤整備事業	施設の耐用年数	30

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の 評価項目 及び 便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	
②漁獲機会の増大効果				千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果			15,222,498	千円
④漁獲物付加価値化の効果				千円
漁業就業環境の向上		⑤漁業就業者の労働環境改善効果		千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果	26,413,962	千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果		千円
		⑨避難・救助・災害対策効果		千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬施設利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	41,636,460	千円
総費用額（現在価値化）		C	27,168,621	千円
費用便益比		B / C	1.53	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

対象種以外の魚種の産卵及び保護・育成効果

広域水産物供給基盤整備事業 檜山海域地区 事業概要図



● 魚礁
▲ 増殖場

事業主体:北海道

主要工事計画:

魚礁252, 162.4 空m³

- ・瀬棚漁場 6,988.6 空m³
- ・大成漁場 78,178.8 空m³
- ・乙部漁場 13,977.0 空m³
- ・上ノ国漁場 76,875.0 空m³
- ・奥尻漁場 76,143.0 空m³

着定基質(産卵礁) 203.71ha

- ・瀬棚沖漁場 42.75 ha
- ・大成沖漁場 19.50 ha
- ・上ノ国沖漁場 61.50 ha
- ・瀬棚地先漁場 13.96 ha
- ・北檜山鵜泊漁場 7.02 ha
- ・大成地先漁場 13.64 ha
- ・乙部地先漁場 2.75 ha
- ・江差泊漁場 3.24 ha
- ・江差鷗島漁場 6.96 ha
- ・上ノ国地先漁場 18.92 ha
- ・奥尻宮津漁場 4.75 ha
- ・奥尻松江漁場 6.40 ha
- ・奥尻青苗漁場 2.32 ha

事業費:99,706 百万円

事業期間:平成14年度~平成23年度



檜山海域 広域漁場整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的：本地区は、水産業が地域経済の中で重要な位置を占めているが、地域経済を担っているサケ、スケトウダラ、スルメイカは漁場の形成や天候、資源動向や魚価に大きく左右されることから、安定した生産体制の構築が課題となっている。
このため、本事業において魚礁を設置し、沿岸性魚種であるホッケやカレイ類、ソイ類等の良好な生息環境を創造するとともに、底質が砂礫地帯であることから産卵基質が不足している海域に産卵礁を設置することでミズダコ、ヤリイカの資源量増大を図り、安定した水産物の生産体制を構築する。
- (2) 主要工事計画：魚礁252,162.4空m³、増殖場2,037,100m²
- (3) 事業費：9,971百万円
- (4) 工期：平成14年度～平成23年度

2. 総費用便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

「水産基盤整備事業費用対効果分析ガイドライン」（令和5年6月改訂 水産庁）及び同「参考資料」（令和5年6月改訂 水産庁）等に基づき算定

区分	算定式	数値
総費用（現在価値化）	①	27,168,621（千円）
総便益額（現在価値化）	②	41,636,460（千円）
総費用総便益比	②÷①	1.53

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費（千円）
魚礁漁場（魚礁）	252,162.4 空m ³	4,870,390
増殖場（着定基質（産卵礁））	203.7 ha	5,100,225
計		9,970,615
維持管理費等		0
総費用（消費税込）		9,970,615
内、消費税額		474,830
総費用（消費税抜）		9,495,785
現在価値化後の総費用		27,168,621

(3) 年間標準便益

効果項目	区分	年間標準便益額（千円）	効果の要因
漁獲可能資源の維持・培養効果		391,667	・生産量の増加効果
漁業外産業への効果		671,905	・水産加工業に対する生産量の増加効果 ・出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果
計		1,063,572	

(4) 総便益算出表

評価期間	年度	割引率 ①	デフレ レータ ②	費用 (千円)			便益 (千円)			割引後 効果額合計 (千円) ①×②×④
				事業費 (維持管理費含む) ③	事業費 (税抜) ③	現在価値 (維持管理費含む) ①×②×③	漁獲可能資源の維持・培養効果	漁業外産業への効果	計 ④	
-21	H14	0.439	1.451	1,202,614	1,145,343	3,785,633	0	0		0
-20	H15	0.456	1.481	1,521,961	1,449,483	4,707,641	17,493	47,433	64,926	210,868
-19	H16	0.475	1.483	1,247,260	1,187,862	3,708,630	39,991	108,444	148,435	463,430
-18	H17	0.494	1.482	1,123,004	1,069,521	3,208,563	82,869	181,254	264,123	792,369
-17	H18	0.513	1.453	963,478	917,592	2,598,950	144,851	274,293	419,144	1,187,166
-16	H19	0.534	1.466	927,298	883,135	2,424,487	198,326	352,527	550,853	1,512,267
-15	H20	0.555	1.463	846,376	806,068	2,124,824	242,860	425,757	668,617	1,762,498
-14	H21	0.577	1.373	806,040	767,654	1,826,671	284,491	493,788	778,279	1,851,953
-13	H22	0.601	1.320	588,260	560,247	1,230,493	316,900	550,110	867,010	1,904,248
-12	H23	0.625	1.369	744,324	708,880	1,552,731	344,306	595,728	940,034	2,059,049
-11	H24	0.650	1.321	0	0	0	376,837	651,894	1,028,731	2,090,698
-10	H25	0.676	1.326	0	0	0	387,184	664,694	1,051,878	2,063,300
-9	H26	0.703	1.268	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,918,364
-8	H27	0.731	1.247	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,814,329
-7	H28	0.760	1.247	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,745,098
-6	H29	0.790	1.214	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,634,401
-5	H30	0.822	1.176	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,521,606
-4	R1	0.855	1.144	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,423,072
-3	R2	0.889	1.127	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,348,308
-2	R3	0.925	1.087	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,249,841
-1	R4	0.962	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,105,584
0	R5	1.000	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,063,572
1	R6	1.040	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	1,022,665
2	R7	1.082	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	982,969
3	R8	1.125	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	945,397
4	R9	1.170	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	909,036
5	R10	1.217	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	873,929
6	R11	1.265	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	840,768
7	R12	1.316	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	808,185
8	R13	1.369	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	776,897
9	R14	1.423	1.000	0	0	0	391,667	671,905	1,063,572	747,415
10	R15	1.480	1.000	0	0	0	374,174	624,472	998,646	674,761
11	R16	1.539	1.000	0	0	0	351,676	563,461	915,137	594,631
12	R17	1.601	1.000	0	0	0	308,798	490,651	799,449	499,344
13	R18	1.665	1.000	0	0	0	246,816	397,612	644,428	387,044
14	R19	1.732	1.000	0	0	0	193,341	319,378	512,719	296,027
15	R20	1.801	1.000	0	0	0	148,807	246,148	394,955	219,298
16	R21	1.873	1.000	0	0	0	107,176	178,117	285,293	152,319
17	R22	1.948	1.000	0	0	0	74,767	121,795	196,562	100,905
18	R23	2.026	1.000	0	0	0	47,361	76,177	123,538	60,976
19	R24	2.107	1.000	0	0	0	14,830	20,011	34,841	16,536
20	R25	2.191	1.000	0	0	0	4,483	7,211	11,694	5,337
計				9,970,615	9,495,785	27,168,621	11,745,527	20,149,939	31,895,466	41,636,460

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定
 ※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3. 効果額の算定方法

(1) 漁獲可能資源の維持・培養効果

浅海域にミズダコを対象としたの産卵礁を造成することで資源量増を図るとともに、沖合に未成魚の育成場や生魚生息の場となる魚礁を設置し地域魚種であるホッケ、ソイ類等良好な生息環境を構築することで安定した水産物の生産体制を構築する。

ホッケ、タラ、カレイ、ソイ類 の生産量の増加効果 (瀬棚漁場)

区分		備考																																				
年間の漁獲増加量 (kg)	① 30,694	・魚礁整備規模 6,989 空m3 ・原単位: 4.392 (kg/空m3) 内訳は②のとおり (水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究H20-21に基づき算出) ・漁獲増加量: 魚礁整備規模×魚種別原単位=合計 30,694 kg																																				
年間の漁獲増加額 (千円)	② 6,698	「北海道水産現勢 (せたな町ほか5町)、H29~R3」より単価を算定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>魚種別構成比(%)</th> <th>魚種別原単位</th> <th>増加生産量(kg)</th> <th>平均単価(円/kg)</th> <th>増産額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>36</td> <td>1.581</td> <td>11,050</td> <td>98</td> <td>1,087</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>35</td> <td>1.537</td> <td>10,743</td> <td>273</td> <td>2,929</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>8</td> <td>0.351</td> <td>2,456</td> <td>188</td> <td>461</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>21</td> <td>0.922</td> <td>6,446</td> <td>345</td> <td>2,221</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>4.392</td> <td>30,694</td> <td>—</td> <td>6,698</td> </tr> </tbody> </table>		魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)	ホッケ	36	1.581	11,050	98	1,087	タラ	35	1.537	10,743	273	2,929	カレイ類	8	0.351	2,456	188	461	ソイ類	21	0.922	6,446	345	2,221	合計	100	4.392	30,694	—	6,698
	魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)																																	
ホッケ	36	1.581	11,050	98	1,087																																	
タラ	35	1.537	10,743	273	2,929																																	
カレイ類	8	0.351	2,456	188	461																																	
ソイ類	21	0.922	6,446	345	2,221																																	
合計	100	4.392	30,694	—	6,698																																	
漁獲経費 (千円)	③ 2,927	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																				
年間便益額 (千円/年)	3,771	②-③																																				

ホッケ、タラ、カレイ、ソイ類 の生産量の増加効果 (大成漁場)

区分		備考																																				
年間の漁獲増加量 (kg)	① 343,361	・魚礁整備規模 78,179 空m3 ・原単位: 4.392 (kg/空m3) 内訳は②のとおり (水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究H20-21に基づき算出) ・漁獲増加量: 魚礁整備規模×魚種別原単位=合計 343,361 kg																																				
年間の漁獲増加額 (千円)	② 74,949	「北海道水産現勢 (せたな町ほか5町)、H29~R3」より単価を算定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>魚種別構成比(%)</th> <th>魚種別原単位</th> <th>増加生産量(kg)</th> <th>平均単価(円/kg)</th> <th>増産額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>36</td> <td>1.581</td> <td>123,610</td> <td>98</td> <td>12,164</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>35</td> <td>1.537</td> <td>120,176</td> <td>273</td> <td>32,775</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>8</td> <td>0.351</td> <td>27,469</td> <td>188</td> <td>5,164</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>21</td> <td>0.922</td> <td>72,106</td> <td>345</td> <td>24,846</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>4.392</td> <td>343,361</td> <td>—</td> <td>74,949</td> </tr> </tbody> </table>		魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)	ホッケ	36	1.581	123,610	98	12,164	タラ	35	1.537	120,176	273	32,775	カレイ類	8	0.351	27,469	188	5,164	ソイ類	21	0.922	72,106	345	24,846	合計	100	4.392	343,361	—	74,949
	魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)																																	
ホッケ	36	1.581	123,610	98	12,164																																	
タラ	35	1.537	120,176	273	32,775																																	
カレイ類	8	0.351	27,469	188	5,164																																	
ソイ類	21	0.922	72,106	345	24,846																																	
合計	100	4.392	343,361	—	74,949																																	
漁獲経費 (千円)	③ 32,753	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																				
年間便益額 (千円/年)	42,196	②-③																																				

ホッケ、タラ、カレイ、ソイ類 の生産量の増加効果 (乙部漁場)

区分		備考																																				
年間の漁獲増加量 (kg)	① 61,387	・魚礁整備規模 13,977 空m3 ・原単位: 4.392 (kg/空m3) 内訳は②のとおり (水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究H20-21に基づき算出) ・漁獲増加量: 魚礁整備規模×魚種別原単位=合計 61,387 kg																																				
年間の漁獲増加額 (千円)	② 13,398	「北海道水産現勢 (せたな町ほか5町)、H29~R3」より単価を算定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>魚種別構成比(%)</th> <th>魚種別原単位</th> <th>増加生産量(kg)</th> <th>平均単価(円/kg)</th> <th>増産額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>36</td> <td>1.581</td> <td>22,099</td> <td>98</td> <td>2,174</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>35</td> <td>1.537</td> <td>21,485</td> <td>273</td> <td>5,859</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>8</td> <td>0.351</td> <td>4,911</td> <td>188</td> <td>923</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>21</td> <td>0.922</td> <td>12,891</td> <td>345</td> <td>4,442</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>4.392</td> <td>61,387</td> <td>—</td> <td>13,398</td> </tr> </tbody> </table>		魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)	ホッケ	36	1.581	22,099	98	2,174	タラ	35	1.537	21,485	273	5,859	カレイ類	8	0.351	4,911	188	923	ソイ類	21	0.922	12,891	345	4,442	合計	100	4.392	61,387	—	13,398
	魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)																																	
ホッケ	36	1.581	22,099	98	2,174																																	
タラ	35	1.537	21,485	273	5,859																																	
カレイ類	8	0.351	4,911	188	923																																	
ソイ類	21	0.922	12,891	345	4,442																																	
合計	100	4.392	61,387	—	13,398																																	
漁獲経費 (千円)	③ 5,855	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																				
年間便益額 (千円/年)	7,543	②-③																																				

ホッケ、タラ、カレイ、ソイ類 の生産量の増加効果 (上ノ国漁場)

区分		備考																																				
年間の漁獲増加量 (kg)	① 337,635	・魚礁整備規模 76,875 空m3 ・原単位： 4.392 (kg/空m3) 内訳は②のとおり (水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究H20-21に基づき算出) ・漁獲増加量：魚礁整備規模×魚種別原単位＝合計 337,635 kg																																				
年間の漁獲増加額 (千円)	② 73,699	「北海道水産現勢(せたな町ほか5町)、H29～R3」より単価を算定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>魚種別構成比(%)</th> <th>魚種別原単位</th> <th>増加生産量(kg)</th> <th>平均単価(円/kg)</th> <th>増産額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>36</td> <td>1.581</td> <td>121,549</td> <td>98</td> <td>11,961</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>35</td> <td>1.537</td> <td>118,172</td> <td>273</td> <td>32,228</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>8</td> <td>0.351</td> <td>27,011</td> <td>188</td> <td>5,078</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>21</td> <td>0.922</td> <td>70,903</td> <td>345</td> <td>24,432</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>4.392</td> <td>337,635</td> <td>—</td> <td>73,699</td> </tr> </tbody> </table>		魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)	ホッケ	36	1.581	121,549	98	11,961	タラ	35	1.537	118,172	273	32,228	カレイ類	8	0.351	27,011	188	5,078	ソイ類	21	0.922	70,903	345	24,432	合計	100	4.392	337,635	—	73,699
	魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)																																	
ホッケ	36	1.581	121,549	98	11,961																																	
タラ	35	1.537	118,172	273	32,228																																	
カレイ類	8	0.351	27,011	188	5,078																																	
ソイ類	21	0.922	70,903	345	24,432																																	
合計	100	4.392	337,635	—	73,699																																	
漁獲経費 (千円)	③ 32,206	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																				
年間便益額 (千円/年)	41,493	②-③																																				

ホッケ、タラ、カレイ、ソイ類 の生産量の増加効果 (奥尻漁場)

区分		備考																																				
年間の漁獲増加量 (kg)	① 334,420	・魚礁整備規模 76,143 空m3 ・原単位： 4.392 (kg/空m3) 内訳は②のとおり (水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究H20-21に基づき算出) ・漁獲増加量：魚礁整備規模×魚種別原単位＝合計 334,420 kg																																				
年間の漁獲増加額 (千円)	② 72,997	「北海道水産現勢(礼文町、利尻町、利尻富士町)、H29～R3」より単価を算定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>魚種別構成比(%)</th> <th>魚種別原単位</th> <th>増加生産量(kg)</th> <th>平均単価(円/kg)</th> <th>増産額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>36</td> <td>1.581</td> <td>120,391</td> <td>98</td> <td>11,847</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>35</td> <td>1.537</td> <td>117,047</td> <td>273</td> <td>31,921</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>8</td> <td>0.351</td> <td>26,754</td> <td>188</td> <td>5,030</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>21</td> <td>0.922</td> <td>70,228</td> <td>345</td> <td>24,199</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>4.392</td> <td>334,420</td> <td>—</td> <td>72,997</td> </tr> </tbody> </table>		魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)	ホッケ	36	1.581	120,391	98	11,847	タラ	35	1.537	117,047	273	31,921	カレイ類	8	0.351	26,754	188	5,030	ソイ類	21	0.922	70,228	345	24,199	合計	100	4.392	334,420	—	72,997
	魚種別構成比(%)	魚種別原単位	増加生産量(kg)	平均単価(円/kg)	増産額(千円)																																	
ホッケ	36	1.581	120,391	98	11,847																																	
タラ	35	1.537	117,047	273	31,921																																	
カレイ類	8	0.351	26,754	188	5,030																																	
ソイ類	21	0.922	70,228	345	24,199																																	
合計	100	4.392	334,420	—	72,997																																	
漁獲経費 (千円)	③ 31,900	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																				
年間便益額 (千円/年)	41,097	②-③																																				

ミズダコ の生産量の増加効果 (瀬棚沖漁場)

区分		備考
年間の漁獲増加量 (kg)	① 270,838	・産卵親魚尾数(雌) 4,249 尾 (土管数6本/基×設置基数×産卵率(19.4%)) (H4,24苫前沖・増毛調査平均による) ・1尾あたり産卵量：50,000粒(『新北のさかなたち』) ・総産卵量：産卵親魚尾数×1尾あたり産卵量＝ 212,430,000 粒 ・漁獲開始前までの生残率： 0.0002 (水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料の手法より) ・漁獲開始時資源量：総産卵量×漁獲開始前までの生残率＝ 42,486 尾 ・年間の漁獲増加量：生残解析より 270,838.0 kg
年間の漁獲増加額 (千円)	② 145,116	①× 平均単価 (536 円 / kg) 水産現勢平均単価 (H29-R3)
漁獲経費 (千円)	③ 63,416	43.7% (総務省個人企業経済調査「第9表」H29-R3平均) ②×0.437
年間便益額 (千円/年)	81,700	②-③

ミズダコ の生産量の増加効果 (大成沖漁場)

区分		備考
年間の漁獲増加量 (kg)	① 144,692	・産卵親魚尾数(雌) 2,270 尾 (土管数6本/基×設置基数×産卵率 (19.4%) (H4,24苫前沖・増毛調査平均による) ・1尾あたり産卵量: 50,000粒 (『新北のさかなたち』) ・総産卵量: 産卵親魚尾数×1尾あたり産卵量= 113,490,000 粒 ・漁獲開始前までの生残率: 0.0002 (水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料の手法より) ・漁獲開始時資源量: 総産卵量×漁獲開始前までの生残率= 22,698 尾 ・年間の漁獲増加量: 生残解析より 144,692.0 kg
年間の漁獲増加額 (千円)	② 77,526	①× 平均単価 (536 円 / kg) 水産現勢平均単価 (H29-R3)
漁獲経費 (千円)	③ 33,879	43.7% (総務省個人企業経済調査「第9表」H29-R3平均) ②×0.437
年間便益額 (千円/年)	43,647	②-③

ミズダコ の生産量の増加効果 (上ノ国沖漁場)

区分		備考
年間の漁獲増加量 (kg)	① 270,838	・産卵親魚尾数(雌) 4,249 尾 (土管数6本/基×設置基数×産卵率 (19.4%) (H4,24苫前沖・増毛調査平均による) ・1尾あたり産卵量: 50,000粒 (『新北のさかなたち』) ・総産卵量: 産卵親魚尾数×1尾あたり産卵量= 212,430,000 粒 ・漁獲開始前までの生残率: 0.0002 (水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料の手法より) ・漁獲開始時資源量: 総産卵量×漁獲開始前までの生残率 42,486 尾 ・年間の漁獲増加量: 生残解析より 270,838.0 kg
年間の漁獲増加額 (千円)	② 145,116	①× 平均単価 (536 円 / kg) 水産現勢平均単価 (H29-R3)
漁獲経費 (千円)	③ 63,416	43.7% (総務省個人企業経済調査「第9表」H29-R3平均) ②×0.437
年間便益額 (千円/年)	81,700	②-③

ヤリイカの生産量の増加効果 (瀬棚地先漁場)

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量 (kg)	① 15,894	・整備面積: 25,448 m ² (2,153基×11.82m ²) ・卵のう付着率: 15.23% (松前大沢増殖場生物調査、H27~29平均) ・面積あたり産卵量: 49,100粒/m ² (松前大沢増殖場生物調査、H27~29平均) ・総産卵量: 整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量= 190,301,802 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾あたりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交済割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> 生残解析 算定手法: 水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i稚稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>551,875</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>551,875</td> <td>441,500</td> <td>110,375</td> <td>15,894.00</td> </tr> </tbody> </table> ・生残解析より資源増加量: 15,894 kg	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾あたりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交済割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i稚稚仔又は漁獲開始時資源尾数	551,875	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	551,875	441,500	110,375	15,894.00
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾あたりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交済割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i稚稚仔又は漁獲開始時資源尾数	551,875	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	551,875	441,500	110,375	15,894.00																																																															
年間の漁獲増加額 (千円)	② 16,760	①× 平均単価 (1,055 円 / kg) 「北海道水産現勢(椴山管内) H29~R3」より																																																																		
漁獲経費 (千円)	③ 7,324	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																																																		
年間便益額 (千円/年)	9,436	②-③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（北檜山鵜泊漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（kg）	① 7,315	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積： 11,714 m²（1,089基×11.82m²） 卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 面積あたり産卵量：49,100粒/m²（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 87,593,630 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>254.021</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>254.021</td> <td>203.217</td> <td>50.804</td> <td>7,315.78</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量： 7,316 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	254.021	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	254.021	203.217	50.804	7,315.78
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	254.021	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	254.021	203.217	50.804	7,315.78																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	② 7,713	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③ 3,370	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）	4,343	②－③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（大成地先漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（kg）	① 12,339	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積： 19,757 m²（1,002基×7.048m²+1,089基×11.82） 卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 面積あたり産卵量：49,100粒/m²（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 147,739,788 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>428.445</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>428.445</td> <td>342.756</td> <td>85.689</td> <td>12,339.22</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量： 12,339 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	428.445	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	428.445	342.756	85.689	12,339.22
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	428.445	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	428.445	342.756	85.689	12,339.22																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	② 13,011	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③ 5,686	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）	7,325	②－③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（乙部地先漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（kg）	①	3,248 ・整備面積：5,201 m ² （440基×11.82m ² ） ・卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） ・面積あたり産卵量：49,100粒/m ² （松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） ・総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 38,891,218 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>112,784</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>112,784</td> <td>90,227</td> <td>22,557</td> <td>3,248.21</td> </tr> </tbody> </table> ・生残解析より資源増加量： 3,248 kg	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	112,784	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	112,784	90,227	22,557	3,248.21
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	112,784	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	112,784	90,227	22,557	3,248.21																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	②	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）		②－③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（江差泊漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（kg）	①	4,023 ・整備面積：6,442 m ² （545基×11.82m ² ） ・卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） ・面積あたり産卵量：49,100粒/m ² （松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） ・総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 48,172,077 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>139,699</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>139,699</td> <td>111,759</td> <td>27,940</td> <td>4,023.36</td> </tr> </tbody> </table> ・生残解析より資源増加量： 4,023 kg	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	139,699	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	139,699	111,759	27,940	4,023.36
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	139,699	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	139,699	111,759	27,940	4,023.36																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	②	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）		②－③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果 (江差島漁場)

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量 (kg)	① 7,928	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積: 12,695 m² (1,074基×11.82m²) 卵のう付着率: 15.23% (松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均) 面積あたり産卵量: 49,100粒/m² (松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均) 総産卵量: 整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量 = 94,929,928 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法: 水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>275,296</td> <td>尾</td> <td>総産卵量 × g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>275,296</td> <td>220,237</td> <td>55,059</td> <td>7,928.50</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量: 7,929 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	275,296	尾	総産卵量 × g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	275,296	220,237	55,059	7,928.50
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	275,296	尾	総産卵量 × g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	275,296	220,237	55,059	7,928.50																																																															
年間の漁獲増加額 (千円)	② 8,360	①× 平均単価 (1,055 円 / kg) 「北海道水産現勢 (檜山管内) H29～R3」より																																																																		
漁獲経費 (千円)	③ 3,653	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																																																		
年間便益額 (千円/年)	4,707	②-③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果 (上ノ国地先漁場)

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量 (kg)	① 18,643	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積: 29,851 m² (1,002基×7.048m²+1,928基×11.82m²) 卵のう付着率: 15.23% (松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均) 面積あたり産卵量: 49,100粒/m² (松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均) 総産卵量: 整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量 = 223,224,107 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法: 水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>647,349</td> <td>尾</td> <td>総産卵量 × g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>647,349</td> <td>517,879</td> <td>129,470</td> <td>18,643.68</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量: 18,644 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	647,349	尾	総産卵量 × g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	647,349	517,879	129,470	18,643.68
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月) 標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	647,349	尾	総産卵量 × g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法(平成2年3月)																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	647,349	517,879	129,470	18,643.68																																																															
年間の漁獲増加額 (千円)	② 19,659	①× 平均単価 (1,055 円 / kg) 「北海道水産現勢 (檜山管内) H29～R3」より																																																																		
漁獲経費 (千円)	③ 8,591	43.7% (総務省漁業経営調査H29-R3平均) ②×0.437																																																																		
年間便益額 (千円/年)	11,068	②-③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（奥尻宮津漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（k g）	① 5,285	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積： 8,463 m²（716基×11.82m²） 卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 面積あたり産卵量：49,100粒/m²（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 63,286,619 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>183,531</td> <td>尾</td> <td>総産卵量 × g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>183,531</td> <td>146,825</td> <td>36,706</td> <td>5,285.66</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量： 5,286 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	183,531	尾	総産卵量 × g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	183,531	146,825	36,706	5,285.66
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	183,531	尾	総産卵量 × g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	183,531	146,825	36,706	5,285.66																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	② 5,573	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③ 2,435	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）	3,138	②-③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（奥尻松江漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（k g）	① 4,410	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積： 7,062 m²（1,089基×7.048m²） 卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 面積あたり産卵量：49,100粒/m²（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 52,809,860 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>153,148</td> <td>尾</td> <td>総産卵量 × g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>153,148</td> <td>122,518</td> <td>30,630</td> <td>4,410.72</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量： 4,411 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	153,148	尾	総産卵量 × g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	153,148	122,518	30,630	4,410.72
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	153,148	尾	総産卵量 × g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	153,148	122,518	30,630	4,410.72																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	② 4,650	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③ 2,032	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）	2,618	②-③																																																																		

ヤリイカの生産量の増加効果（奥尻青苗漁場）

区分		備考																																																																		
年間の漁獲増加量（kg）	① 2,642	<ul style="list-style-type: none"> 整備面積：4,232 m²（358基×11.82m²） 卵のう付着率：15.23%（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 面積あたり産卵量：49,100粒/m²（松前大沢増殖場生物調査、H27～29平均） 総産卵量：整備面積×卵のう付着率×面積あたり産卵量＝ 31,643,309 粒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a1尾あたり産卵量</td> <td>2,800</td> <td>粒</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>b漁獲開始年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c成熟年齢</td> <td>1</td> <td>歳</td> <td>新北のさかなたちより</td> </tr> <tr> <td>d成熟までの見かけの生残率</td> <td>0.000714</td> <td></td> <td>1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a</td> </tr> <tr> <td>e全減耗率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%</td> </tr> <tr> <td>f交接済割合</td> <td>30.6</td> <td>%</td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> <tr> <td>g資源の再生に必要な最終生残率</td> <td>0.0029</td> <td></td> <td>1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f</td> </tr> </tbody> </table> <p>生残解析 算定手法：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン 参考資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資源特性値</th> <th>推算値</th> <th></th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数</td> <td>91,765</td> <td>尾</td> <td>総産卵量×g</td> </tr> <tr> <td>j漁獲開始後自然死亡率</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>k漁獲率</td> <td>0.2</td> <td></td> <td>北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>体重(g)</th> <th>漁獲開始時資源量</th> <th>自然死亡</th> <th>漁獲死亡</th> <th>漁獲量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>144</td> <td>91,765</td> <td>73,412</td> <td>18,353</td> <td>2,642.83</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生残解析より資源増加量： 2,643 kg 	項目	推算値		備考	a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより	b漁獲開始年齢	1	歳		c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより	d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a	e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%	f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f	資源特性値	推算値		備考	i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	91,765	尾	総産卵量×g	j漁獲開始後自然死亡率	0.8			k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）	年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)	0		0	0	0	0.00	1	144	91,765	73,412	18,353	2,642.83
項目	推算値		備考																																																																	
a1尾あたり産卵量	2,800	粒	新北のさかなたちより																																																																	
b漁獲開始年齢	1	歳																																																																		
c成熟年齢	1	歳	新北のさかなたちより																																																																	
d成熟までの見かけの生残率	0.000714		1尾当たりの産卵から、次の資源の生産に必要な雄雌2尾が残る確率 2/a																																																																	
e全減耗率	0.8		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）標識放流再採捕率20%のため減耗率は最大80%																																																																	
f交接済割合	30.6	%	北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
g資源の再生に必要な最終生残率	0.0029		1年魚のため全減耗率と交接済の割合を考慮した実際の資源の再生に必要な最終生残率 d/e/f																																																																	
資源特性値	推算値		備考																																																																	
i幼稚仔又は漁獲開始時資源尾数	91,765	尾	総産卵量×g																																																																	
j漁獲開始後自然死亡率	0.8																																																																			
k漁獲率	0.2		北海道松前町におけるヤリイカの資源増大対策と展開方法（平成2年3月）																																																																	
年齢	体重(g)	漁獲開始時資源量	自然死亡	漁獲死亡	漁獲量(kg)																																																															
0		0	0	0	0.00																																																															
1	144	91,765	73,412	18,353	2,642.83																																																															
年間の漁獲増加額（千円）	② 2,786	①× 平均単価（ 1,055 円 / kg）「北海道水産現勢（檜山管内）H29～R3」より																																																																		
漁獲経費（千円）	③ 1,217	43.7%（総務省漁業経営調査H29-R3平均） ②×0.437																																																																		
年間便益額（千円/年）	1,569	②-③																																																																		

(2) 漁業外産業への効果

造成漁場で漁獲・生産される漁獲物は、仲買人・運送業者、小売商等を通じて消費者に届けられるが、この出荷過程の間に流通業者等に帰属する便益が発生することから、産地から消費地までの出荷過程で発生する便益額を算定する。

ホッケ、タラ、カレイ類、ソイ類の出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（瀬棚漁場）

区分		備考																																										
増加出荷量（kg）	① 30,694	(1) ①より																																										
発生便益額（千円）	② 30,291	<p>「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>11,050</td> <td>161</td> <td>2.81</td> <td>452</td> <td>98</td> <td>3,916</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>10,743</td> <td>366</td> <td>2.81</td> <td>1,028</td> <td>273</td> <td>8,115</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>2,456</td> <td>523</td> <td>2.77</td> <td>1,449</td> <td>188</td> <td>3,096</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>6,446</td> <td>960</td> <td>2.81</td> <td>2,698</td> <td>345</td> <td>15,164</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30,694</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>30,291</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ホッケ	11,050	161	2.81	452	98	3,916	タラ	10,743	366	2.81	1,028	273	8,115	カレイ類	2,456	523	2.77	1,449	188	3,096	ソイ類	6,446	960	2.81	2,698	345	15,164	合計	30,694	-	-	-	-	30,291
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)																																						
ホッケ	11,050	161	2.81	452	98	3,916																																						
タラ	10,743	366	2.81	1,028	273	8,115																																						
カレイ類	2,456	523	2.77	1,449	188	3,096																																						
ソイ類	6,446	960	2.81	2,698	345	15,164																																						
合計	30,694	-	-	-	-	30,291																																						
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定																																										
年間便益額（千円/年）	10,229	②×③																																										

ホッケ、タラ、カレイ類、ソイ類の出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（大成漁場）

区分		備考																																										
増加出荷量（kg）	① 343,361	(1) ①より																																										
発生便益額（千円）	② 338,854	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>123,610</td> <td>161</td> <td>2.81</td> <td>452</td> <td>98</td> <td>43,807</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>120,176</td> <td>366</td> <td>2.81</td> <td>1,028</td> <td>273</td> <td>90,781</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>27,469</td> <td>523</td> <td>2.77</td> <td>1,449</td> <td>188</td> <td>34,630</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>72,106</td> <td>960</td> <td>2.81</td> <td>2,698</td> <td>345</td> <td>169,636</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>343,361</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>338,854</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ホッケ	123,610	161	2.81	452	98	43,807	タラ	120,176	366	2.81	1,028	273	90,781	カレイ類	27,469	523	2.77	1,449	188	34,630	ソイ類	72,106	960	2.81	2,698	345	169,636	合計	343,361	-	-	-	-	338,854
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)																																						
ホッケ	123,610	161	2.81	452	98	43,807																																						
タラ	120,176	366	2.81	1,028	273	90,781																																						
カレイ類	27,469	523	2.77	1,449	188	34,630																																						
ソイ類	72,106	960	2.81	2,698	345	169,636																																						
合計	343,361	-	-	-	-	338,854																																						
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定																																										
年間便益額（千円/年）	114,430	②×③																																										

ホッケ、タラ、カレイ類、ソイ類の出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（乙部漁場）

区分		備考																																										
増加出荷量（kg）	① 61,387	(1) ①より																																										
発生便益額（千円）	② 60,581	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>22,099</td> <td>161</td> <td>2.81</td> <td>452</td> <td>98</td> <td>7,832</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>21,485</td> <td>366</td> <td>2.81</td> <td>1,028</td> <td>273</td> <td>16,230</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>4,911</td> <td>523</td> <td>2.77</td> <td>1,449</td> <td>188</td> <td>6,191</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>12,891</td> <td>960</td> <td>2.81</td> <td>2,698</td> <td>345</td> <td>30,328</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61,387</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>60,581</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ホッケ	22,099	161	2.81	452	98	7,832	タラ	21,485	366	2.81	1,028	273	16,230	カレイ類	4,911	523	2.77	1,449	188	6,191	ソイ類	12,891	960	2.81	2,698	345	30,328	合計	61,387	-	-	-	-	60,581
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)																																						
ホッケ	22,099	161	2.81	452	98	7,832																																						
タラ	21,485	366	2.81	1,028	273	16,230																																						
カレイ類	4,911	523	2.77	1,449	188	6,191																																						
ソイ類	12,891	960	2.81	2,698	345	30,328																																						
合計	61,387	-	-	-	-	60,581																																						
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定																																										
年間便益額（千円/年）	20,458	②×③																																										

ホッケ、タラ、カレイ類、ソイ類の出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（上ノ国漁場）

区分		備考																																										
増加出荷量（kg）	① 337,635	(1) ①より																																										
発生便益額（千円）	② 333,204	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>121,549</td> <td>161</td> <td>2.81</td> <td>452</td> <td>98</td> <td>43,077</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>118,172</td> <td>366</td> <td>2.81</td> <td>1,028</td> <td>273</td> <td>89,267</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>27,011</td> <td>523</td> <td>2.77</td> <td>1,449</td> <td>188</td> <td>34,053</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>70,903</td> <td>960</td> <td>2.81</td> <td>2,698</td> <td>345</td> <td>166,807</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>337,635</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>333,204</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ホッケ	121,549	161	2.81	452	98	43,077	タラ	118,172	366	2.81	1,028	273	89,267	カレイ類	27,011	523	2.77	1,449	188	34,053	ソイ類	70,903	960	2.81	2,698	345	166,807	合計	337,635	-	-	-	-	333,204
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)																																						
ホッケ	121,549	161	2.81	452	98	43,077																																						
タラ	118,172	366	2.81	1,028	273	89,267																																						
カレイ類	27,011	523	2.77	1,449	188	34,053																																						
ソイ類	70,903	960	2.81	2,698	345	166,807																																						
合計	337,635	-	-	-	-	333,204																																						
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定																																										
年間便益額（千円/年）	112,522	②×③																																										

ホッケ、タラ、カレイ類、ソイ類の出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（奥尻漁場）

区分		備考																																										
増加出荷量 (kg)	① 334,420	(1) ①より																																										
発生便益額 (千円)	② 330,031	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホッケ</td> <td>120,391</td> <td>161</td> <td>2.81</td> <td>452</td> <td>98</td> <td>42,667</td> </tr> <tr> <td>タラ</td> <td>117,047</td> <td>366</td> <td>2.81</td> <td>1,028</td> <td>273</td> <td>88,417</td> </tr> <tr> <td>カレイ類</td> <td>26,754</td> <td>523</td> <td>2.77</td> <td>1,449</td> <td>188</td> <td>33,728</td> </tr> <tr> <td>ソイ類</td> <td>70,228</td> <td>960</td> <td>2.81</td> <td>2,698</td> <td>345</td> <td>165,219</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>334,420</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>330,031</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ホッケ	120,391	161	2.81	452	98	42,667	タラ	117,047	366	2.81	1,028	273	88,417	カレイ類	26,754	523	2.77	1,449	188	33,728	ソイ類	70,228	960	2.81	2,698	345	165,219	合計	334,420	-	-	-	-	330,031
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)																																						
ホッケ	120,391	161	2.81	452	98	42,667																																						
タラ	117,047	366	2.81	1,028	273	88,417																																						
カレイ類	26,754	523	2.77	1,449	188	33,728																																						
ソイ類	70,228	960	2.81	2,698	345	165,219																																						
合計	334,420	-	-	-	-	330,031																																						
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定																																										
年間便益額 (千円/年)	111,451	②×③																																										

ミズダコの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（瀬棚沖漁場）

区分		備考														
増加出荷量 (kg)	① 270,838	(1) の①より														
発生便益額 (千円)	② 262,658	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミズダコ</td> <td>270,838</td> <td>536</td> <td>2.81</td> <td>1,505.6</td> <td>536</td> <td>262,658</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ミズダコ	270,838	536	2.81	1,505.6	536	262,658
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)										
ミズダコ	270,838	536	2.81	1,505.6	536	262,658										
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額 (千円/年)	88,699	②×③														

ミズダコの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（大成沖漁場）

区分		備考														
増加出荷量 (kg)	① 144,692	(1) の①より														
発生便益額 (千円)	② 140,322	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミズダコ</td> <td>144,692</td> <td>536</td> <td>2.81</td> <td>1,505.6</td> <td>536</td> <td>140,322</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ミズダコ	144,692	536	2.81	1,505.6	536	140,322
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)										
ミズダコ	144,692	536	2.81	1,505.6	536	140,322										
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額 (千円/年)	47,386	②×③														

ミズダコの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（上ノ国沖漁場）

区分		備考														
増加出荷量 (kg)	① 270,838	(1) の①より														
発生便益額 (千円)	② 262,658	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミズダコ</td> <td>270,838</td> <td>536</td> <td>2.81</td> <td>1,505.6</td> <td>536</td> <td>262,658</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ミズダコ	270,838	536	2.81	1,505.6	536	262,658
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)										
ミズダコ	270,838	536	2.81	1,505.6	536	262,658										
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額 (千円/年)	88,699	②×③														

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（瀬棚地先漁場）

区分		備考														
増加出荷量 (kg)	① 15,894	(1) の①より														
発生便益額 (千円)	② 44,940	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)</th> <th>e産地単価 (円/kg)</th> <th>f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>15,894</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>44,940</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)	ヤリイカ	15,894	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	44,940
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価 (b×c) (円/kg)	e産地単価 (円/kg)	f年間便益額 (a×(d-e)) (千円)										
ヤリイカ	15,894	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	44,940										
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額 (千円/年)	15,176	②×③														

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（北檜山鵜泊漁場）

区分		備考												
増加出荷量 (k g)	① 7,315	(1) の①より												
発生便益額 (千円)	② 20,683	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報 (H29～R3平均)、c流通価格比：総務省小売物価統計調査 (H29～R3平均) または消費生活モニター価格動向調査 (H29～R3平均) とb消費地卸売単価の比率平均」より算定												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>7,315</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>20,683</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	7,315	1,381.5	2.81	3,882.0
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)								
ヤリイカ	7,315	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	20,683								
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定												
年間便益額 (千円/年)	6,984	②×③												

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（大成地先漁場）

区分		備考												
増加出荷量 (k g)	① 12,339	(1) の①より												
発生便益額 (千円)	② 34,888	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報 (H29～R3平均)、c流通価格比：総務省小売物価統計調査 (H29～R3平均) または消費生活モニター価格動向調査 (H29～R3平均) とb消費地卸売単価の比率平均」より算定												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>12,339</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>34,888</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	12,339	1,381.5	2.81	3,882.0
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)								
ヤリイカ	12,339	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	34,888								
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定												
年間便益額 (千円/年)	11,781	②×③												

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（乙部地先漁場）

区分		備考												
増加出荷量 (k g)	① 3,248	(1) の①より												
発生便益額 (千円)	② 9,184	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報 (H29～R3平均)、c流通価格比：総務省小売物価統計調査 (H29～R3平均) または消費生活モニター価格動向調査 (H29～R3平均) とb消費地卸売単価の比率平均」より算定												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>3,248</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>9,184</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	3,248	1,381.5	2.81	3,882.0
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)								
ヤリイカ	3,248	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	9,184								
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定												
年間便益額 (千円/年)	3,101	②×③												

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（江差泊地先漁場）

区分		備考												
増加出荷量 (k g)	① 4,023	(1) の①より												
発生便益額 (千円)	② 11,375	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報 (H29～R3平均)、c流通価格比：総務省小売物価統計調査 (H29～R3平均) または消費生活モニター価格動向調査 (H29～R3平均) とb消費地卸売単価の比率平均」より算定												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>4,023</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>11,375</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	4,023	1,381.5	2.81	3,882.0
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)								
ヤリイカ	4,023	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	11,375								
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定												
年間便益額 (千円/年)	3,841	②×③												

ヤリイカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（江差鷗島漁場）

区分		備考												
増加出荷量 (k g)	① 7,928	(1) の①より												
発生便益額 (千円)	② 22,416	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報 (H29～R3平均)、c流通価格比：総務省小売物価統計調査 (H29～R3平均) または消費生活モニター価格動向調査 (H29～R3平均) とb消費地卸売単価の比率平均」より算定												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>7,928</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>22,416</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	7,928	1,381.5	2.81	3,882.0
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)								
ヤリイカ	7,928	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	22,416								
付加価値率 (%)	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定												
年間便益額 (千円/年)	7,569	②×③												

ヤリカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（上ノ国地先漁場）

区分		備考														
増加出荷量（kg）	① 18,643	(1)の①より														
発生便益額（千円）	② 52,713	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>18,643</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>52,713</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	18,643	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	52,713
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)										
ヤリイカ	18,643	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	52,713										
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額（千円/年）	17,801	②×③														

ヤリカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（奥尻宮津漁場）

区分		備考														
増加出荷量（kg）	① 5,285	(1)の①より														
発生便益額（千円）	② 14,943	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>5,285</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>14,943</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	5,285	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	14,943
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)										
ヤリイカ	5,285	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	14,943										
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額（千円/年）	5,046	②×③														

ヤリカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（奥尻松江漁場）

区分		備考														
増加出荷量（kg）	① 4,410	(1)の①より														
発生便益額（千円）	② 12,469	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>4,410</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>12,469</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	4,410	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	12,469
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)										
ヤリイカ	4,410	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	12,469										
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額（千円/年）	4,210	②×③														

ヤリカの出荷過程における流通業に対する生産量の増加効果（奥尻青苗漁場）

区分		備考														
増加出荷量（kg）	① 2,642	(1)の①より														
発生便益額（千円）	② 7,470	「b消費地卸売単価：札幌市中央卸売市場年報（H29～R3平均）、c流通価格比：総務省小売物価統計調査（H29～R3平均）または消費生活モニター価格動向調査（H29～R3平均）とb消費地卸売単価の比率平均」より算定														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a増加生産量(kg)</th> <th>b消費地卸売単価(円)</th> <th>c流通価格比</th> <th>d消費地小売単価(b×c)(円/kg)</th> <th>e産地単価(円/kg)</th> <th>f年間便益額(a×(d-e))(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤリイカ</td> <td>2,642</td> <td>1,381.5</td> <td>2.81</td> <td>3,882.0</td> <td>1,055</td> <td>7,470</td> </tr> </tbody> </table>		a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)	ヤリイカ	2,642	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	7,470
	a増加生産量(kg)	b消費地卸売単価(円)	c流通価格比	d消費地小売単価(b×c)(円/kg)	e産地単価(円/kg)	f年間便益額(a×(d-e))(千円)										
ヤリイカ	2,642	1,381.5	2.81	3,882.0	1,055	7,470										
付加価値率（%）	33.77	「総務省個人企業経済調査、H29～R3平均」より算定														
年間便益額（千円/年）	2,522	②×③														